TOWER RECORDS NO MUSIC, NO LIFE.

（20104）
2020 年 11 月 16 日
タワーレコード株式会社

CTI レーベルの傑作を（世界初）SA-CD HYBRID 化シリーズがスタート！

TOWER RECORDS presents CTI SA-CD HYBRID SELECTION

第一弾は 12/9 タワーレコード限定で 4 タイトル発売

PRESS RELEASE

タワーレコードでは、株式会社キングインターナショナルの協力の下、60 年代後半に名プロデューサー、クリード・テイラーによって設立され、70 年代～80 年代のクロスオーバー/フュージョンの数々の傑作を世に送り出した名レーベル CTI レコードの名盤を世界初 SA-CD HYBRID 化するシリーズ**「TOWER RECORDS presents CTI SA-CD HYBRID SELECTION」**がスタートします。

その第一弾として、12 月 9 日（水）**ジム・ホール、ビル・エヴァンス、チェット・ベイカー、ポール・デスモンド**の作品をタワーレコード限定で発売します。

オリジナル・レコーディングのエンジニアはジャズ・レコーディングの巨匠として知られたルディ・ヴァン・ゲルダー（RVG）が担当。マスタリング・SACD 化監修含むシリーズ総監修は和田博巳氏が務め完全生産限定盤となります。

「TOWER RECORDS presents CTI SA-CD HYBRID SELECTION」

第 1 弾　ラインナップ　2020 年 12 月 9 日（水）発売（上段左より）

① ジム・ホール/アランフェス協奏曲

② ビル・エヴァンス/モントルーII

③ チェット・ベイカー/枯葉

④ ポール・デスモンド/　ピュア・デスモンド

【シリーズ監修者、ライナー執筆者紹介】

総監修、解説…和田博巳氏（オーディオ評論家）

アルバム解説…馬場雅之（タワーレコード）

本件に関するお問合せ先
タワーレコード株式会社広報室 谷河（やがわ）、寺浦
TEL：03-4332-0705　Email：press@tower.co.jp

■TOWER RECORDS presents CTI SA-CD HYBRID SELECTION 概要

【本リリース最大の特徴】

・タワーレコード・オリジナル企画盤。完全生産限定盤。世界初 SA-CD HYBRID 化

・RVG スタジオのオリジナルマスターテープからコピーした極上のコンディションのマスターを DSD にダイレクト変換し、同 DSD データをそのまま SACD 化。オリジナルアナログ音源のサウンドを限りなく忠実に再現した SACD

・CD 層も新たに DSD データから PCM 化したものを使用

・盤印刷面: 緑色コーティング（音匠仕様）

・マスタリング・SACD 化監修含むシリーズ総監修は和田博巳氏

＊使用音源とマスタリング：

・キングレコードに厳重保管された極めて良好なコンディションのマスターテープ（オリジナル・マスターからのコピー。RVG スタジオのマスターテープと比較しても音の劣化が少ないと思われる高音質なマスター）を使用

・マスタリング・エンジニア：辻裕行氏

キングレコード関口台スタジオで 2020 年 10 月にマスタリング

■第 1 弾商品詳細

SA-CD HYBRID 仕様　各¥3,500（税抜）

■企画・販売：　タワーレコード株式会社

■制作・発売：　株式会社キングインターナショナル

https://tower.jp/article/feature_item/2020/11/16/0101

①　ジム・ホール/アランフェス協奏曲　Jim Hall / Concierto（1975）

「ヴァン・ゲルダーによるレーベルカラーにあわせた自在な音作りの手腕が確信できる傑作」-　和田博巳

マイルス・デイヴィスの『スケッチ・オブ・スペイン』同様、スペインの作曲家ロドリーゴの名曲をジャズ・カヴァーした名盤であり、70 年代のジム・ホールの代表作。メンバーはポール・デスモンド、チェット・ベイカー、ローランド・ハナ、ロン・カーターら実力派ジャズメン揃いの中、ドラムスは当時 NY の一流セッションマンであったスティーヴ・ガッドが参加。ローランド・ハナの素晴らしいピアノの音色で伺える、録音を担当したルディ・ヴァン・ゲルダーのレーベルカラーに合わせた自在な音作りの手腕が確信できる傑作になっている。

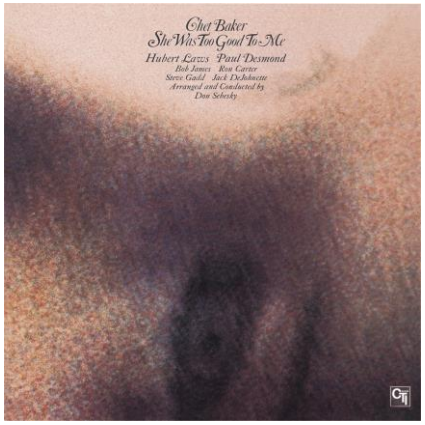
② ビル・エヴァンス/モントルーII　Bill Evans/ Montreux II（1970）

「ライヴ録音らしいストレートで生々しい音。“動”のエヴァンスが堪能できる一枚」　-　和田博巳

ビル・エヴァンスが生涯 3 作リリースしたモントルー・ジャズ・フェスでのライヴ・アルバムの 2 作目、1970 年の 6 月のパフォーマンス。ベースはエディ・ゴメス、ドラムスはマーティ・モレルという、エヴァンス・トリオとしては最長の 6 年間の活動期間を誇ったトリオでの演奏。演目の“ヴェリー・アーリー”、“34 スキドゥー”、“ペリズ・スコープ”といったお馴染みのオリジナル曲から、アール・ジンダース作曲“ハウ・マイ・ハート・シングス”、バカラック作曲の“アルフィー”まで、スタジオ録音での演奏よりアグレッシヴなアプローチで聴かせる“ライヴ”なエヴァンスの姿が魅力。

③ チェット・ベイカー/枯葉　Chet Baker / She Was Too Good To Me（1974）

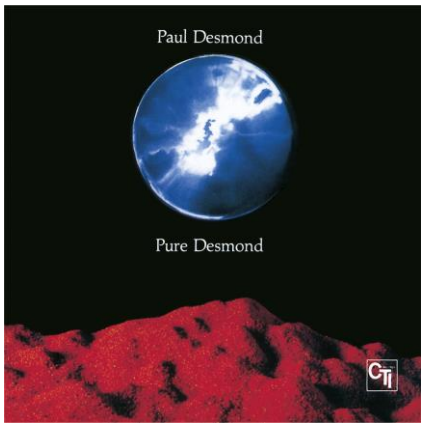
「エレクトリック・ピアノを配し、50 年代～60 年代的な古色を纏わない実に清新なサウンド」-　和田博巳



チェット･ベイカーが 60 年代後半はドラッグによる不遇の時代を経て、70 年代に入ってからの“復帰作”と位置付けられた意欲作。選曲はほぼスタンダードがメインで、極めてジャズ寄りな内容でありながら、ピアノに関しては、すべてボブ・ジェームスが弾くフェンダー・ローズ・エレクトリック・ピアノでの演奏ゆえ、50 年代～60 年代的なジャズの音に終始していない清新なサウンドを演出。ドラマーはスティーヴ・ガッドとジャック・ディジョネットというスタイルもスタンスも違う 2 人のドラマーが参加。3 曲のヴォーカル・チューンではドン・セベスキーのストリングス・アレンジとの抜群のマッチングで魅了する。

④ ポール・デスモンド/　ピュア・デスモンド　Paul Desmond / Pure Desmond（1975）

「とろけるような甘美なアルトサックスの音色とクリーンなトーンのギターを見事にハーモニーさせたジャズ・サウンド」　-　和田博巳



デイヴ・ブルーベック・カルテットでの活動や名曲“テイク・ファイヴ”の作曲者で知られるアルトサックス奏者のポール･デスモンドが生前に残したスタジオ録音による最後のリーダー・アルバム。ポール・デスモンドのアルトサックスの特徴は 1 音鳴っただけでその場の空気を変えてしまう、そのフワッとしたソフトなトーン。その音色を生かすべく、60 年代の一連のジム・ホールとのピアノレスのギター入りワン・ホーン・カルテットによるリーダー作同様、カナダ人ギタリストのエド・ビッカートをフィーチャーした同編成でのストレートなジャズ作。

CTI レーベル（CTI Records）

1967 年音楽プロデューサーのクリード・テイラーによって創設されたレコードレーベル。

クロスオーバー、フュージョンのフィールドで、その黎明期から隆盛期まで、数々の傑作をリリースし後世に残すに至っている。

主要タイトルのレコーディングをジャズの名エンジニア、ルディ・ヴァン・ゲルダーが手掛けており、そのサウンドのクオリティの高さには定評がある。

時代の空気感をつたえるアートワークも魅力。

SACD(スーパーオーディオ CD)とは

2.8MHz DSD を採用した高音質メディアとして 1999 年に登場した CD と同じ 12cm 光ディスク。Direct Stream Digital(DSD)方式は従来の PCM 方式とは全く異なる音声信号の大小を 1 ビットのデジタルパルスの密度(濃淡)で表現する方式です。SACD は CD の約 7 倍の 4.7GB の容量を持っています。この容量を生かし、アーティストや制作者側が意図したオリジナル・マスターに極めて近い高音質で、音楽をお楽しみいただけます。尚、ハイブリッドディスクの場合は、通常の CD プレーヤーで再生が可能です。

***CTI SA-CD HYBRID* セレクション今後のリリース**

1 月上旬発売発売予定

KCTCD 1005 春の祭典 / ヒューバート・ロウズ

KCTCD 1006 ラプソディー・イン・ブルー / デオダート

KCTCD 1007 グッドバイ / ミルト・ジャクソン

2 月上旬 or 3 月上旬発売発売予定

KCTCD 1008 ボルチモア / ニーナ・シモン

KCTCD 1009 ジルベルト・ウィズ・タレンタイン / アストラッド・ジルベルト

KCTCD 1010 ストーン・フラワー / アントニオ・カルロス・ジョビン